



栗山川のアジサイが咲き始め、関東地方も梅雨入りしました。湿った空気は、空も心もどんよりさせてしまいます。そんなときは、図書室へ来て、たくさんの中から自分の好きな一冊を探してみたいはいかがですか。

6月21日は、金環日食の日



日食とは、月が太陽の前を横切ることによって太陽の一部（または全部）が隠れる現象のことをいいます。今回アフリカやアジアの一部では金環日食（全て隠れること）ですが、日本では部分日食です。東京は、夕方16時11分13秒から始まります。

「月と暮らす。～月を知り、月のリズムで～」 藤井旭 著

日食が起きる詳しい解説や、実際に起きた日食の時に、地上から見た月の影と、宇宙から見た月の影を撮影した写真がカラーで載っていて、わかりやすいです。

「月のえくぼを見た男 麻田剛立」 鹿毛敏夫 著

江戸時代、まだ十六歳だった剛立は、暦にはのっていない日食を予測していました。その後も観測を続け、二十八歳になった時、再び暦にない日食の予測を公表し、天文学者として認められました。

「アーサー王とあった男」SF名作コレクション1 マーク・トウェーン 著

アメリカ人の主人公がアーサー王の時代にタイムスリップしてしまう話です。奇妙な服装から変人とみなされ捕らえられてしまいますが、日食を利用して九死に一生を得ます。



今年是一年間、書名に色が入った本を紹介します。

6月は 緑（グリーン）

🌸 「怪盗ルパン 緑の目の少女」 ルブラン 著

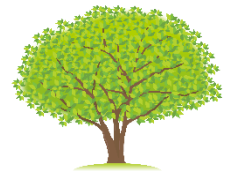
パリの街中で二人の美女と出会うルパン。青い目の女は貴族の令嬢で、同じ列車の中で怪賊に襲われます。その犯人を追い、捕まえた一人が緑の目の少女でした。少女は本当に殺人犯なのか。その理由は？
映画「カリオストロの城」の湖上の遺跡のモデルとなった湖が登場する作品です。

🌸 「グリーン・ノウの子どもたち」 ルーシー・M・ボストン 著 亀井俊介 訳

冬休みの間、大おばさんの住むグリーン・ノウという古い城のような屋敷で過ごすことになったトリー。そこには、三人の子供たちがいて仲良くなりますが、実は……。美しい自然と温かい人たちに囲まれて、一緒に不思議な体験をしながら成長していく話です。

🌸 「緑のドクター 老木の治療に生涯をささげる樹医・山野忠彦」 藤崎康夫 作 根岸佐千子 写真

戦前、朝鮮で木の研究をしていた忠彦は、戦後日本に戻り、山の調査の仕事につきます。しかし山林のひどい姿を目の当たりにし、病気の木や老木の治療する樹医になることを決意します。何かに情熱を持って取り組むことは、素敵です。



この本、読んでみませんか？ (図書委員 真愛さんおすすめ)

「幽落町おばけ駄菓子屋」 蒼月海星：著

主人公の大学生が、あやかしの町へと迷い込み、暮らさなければならなくなってしまいます。その世界で、大家さんであり駄菓子屋の店主である水脈さんと、主人公が力を合わせて、亡くなった方の憂いを晴らして成仏するのを助ける、心温まる物語です。ほっこりしたい気分の人、あやかしやお化けに興味がある人にオススメです。謎解きもあり、楽しく読めます。この作品は著者のデビュー作です。ぜひ、読んでみてください。